

日頃練磨した救助技術を発揮 県消防救助技術指導会選考会

4月18日、西臼杵広域行政事務組合消防本部(日高一昭消防長)で、県消防救助技術指導会派遣選手選考会が行われました。

選考会は、ロープブリッジ渡過、ロープブリッジ救出、ほふく救助の3種目。隊員らは、県大会出場を懸けて訓練の成果を発揮しました。日高消防長は「より早く救助するために先を読む力を身につけてほしい」と講評しました。



救出へ向かう隊員 ※残念ながら県大会は中止となりました。

新規就農プログラム 高千穂ファーマーズスクール開講式

4月26日、役場会議室にて、高千穂ファーマーズスクールの第一期生として、佐々木有子さん(延岡市出身)に研修承認証書が授与されました。

佐々木さんは、大阪で生花販売に携わっていたころに生産にも興味を持ち、3年前に大阪で行われた宮崎県の就農相談会で話を聞いたことがきっかけとなり、ランキンユラス栽培で有名な高千穂で就農したいと決意され、今回の入講となりました。



研修期間:令和4年4月1日~令和6年3月31日(2年間)

増水対策と安全な乗り場へ ボート乗り場リニューアル

4月15日、高千穂峡ボート乗り場のリニューアルオープンセレモニーが行われました。

河川の増水により、たびたび運行に支障が出ていたボート乗り場を、旭化成株式会社が地域貢献の一環として、昨年11月より改修(株式会社熊合組が施工)を行い、町へ寄贈しました。

運行を行う高千穂町観光協会の竹尾通洋会長は「ぜひ、ボートに乗って神話の世界に浸ってほしい」と話しました。



改修前より、35cm高く、幅が倍の4.4mとなりました。

平和を祈り 高千穂神社春季例祭を斎行

4月16日、高千穂神社(後藤俊彦宮司)で、春季例祭が行われました。今年も、新型コロナウイルスのため御神幸は中止となり、式典のみの開催となりました。

神事後、昨今の世界情勢を鑑み、平穏な日常を願う思いから「住吉」が三田井地区神楽保存会によって披露されました。

また、伊邪那岐會(富士野真二會頭)によって、久しぶりにみこしが担がれ、本殿を周回し参拝者らをにぎわせました。



天気もよく御神幸の中止が残念です。

情報発信、防災、SDGsなど相互取組を強化 包括的パートナーシップ協定を締結

4月7日、町と株式会社宮崎放送牧廠代表取締役社長は、放送牧廠代表取締役社長は、地域活性化や住民サービスの向上を図るため、包括的パートナーシップ協定を締結しました。

牧代表取締役社長は、「ノウハウを生かして県内の市町村を元気にしたい。また、メディアリテラシーやフェイクニュースなど、記者やアナウンサーを通して、子どもたちに分かりやすく伝えることで、健全な教育ができれば」と述べました。



締結書を手にする甲斐町長(左)と牧廠代表取締役社長

安全な観光地へ 高千穂峡観光安全祈願祭が開催

4月15日、ゴールデンウィークを前に、高千穂町観光協会(竹尾通洋会長)は、高千穂峡のあらぎ乃茶屋前広場で関係者出席のもと、観光安全祈願祭が行われました。

式典では、代表者による玉串奉納の後、竹尾会長と甲斐町長が、五ヶ瀬川へ献酒しました。

竹尾会長は「新型コロナウイルスや多発する地震が心配だが、五ヶ瀬川の恵みに感謝し、事故がないように祈念した」と話しました。



町民や観光客にとって安全安心な1年になりますように。

新学期を前に 一滴の会による清掃ボランティア

4月5日、非営利特定法人一滴の会(佐藤憲洋理事長・会員20名)が、高千穂中学校の給食室の屋根や雨どいなどの清掃を行いました。

10数年ぶり行った清掃では、傷んでいる箇所もありましたが、建築や塗装などを専門とする会員がいることもあり、てきぱきとした作業で、屋根や雨どいについたコケや積もった落ち葉などの汚れを高圧洗浄機などを使用し、きれいにしました。



10数年ぶりの汚れがきれいになりました。

高千穂高校の魅力を伝える 魅力向上コーディネーター任命式

4月5日、町長室にて、高千穂高校魅力コーディネーターの任命式が行われました。

コーディネーターに任命されたのは、茨木いずみさん(元O法人グローバルアカデミー事務局長、工藤天裕さん(地域おこし協力隊)、田崎友教さん(町役場の3名)。

高千穂高校の佐伯浩美校長は「3人も高校の職員だと考えている。一緒になって子どもを育ててほしい」と話しました。



茨木さん(中央)、工藤さん(同右)、田崎さん(同左)